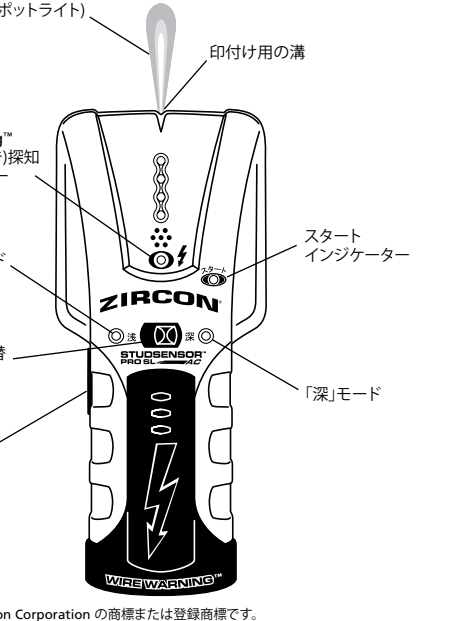
スタッドセンサー™ Pro SL-AC
壁・間柱の『端』探知器

スタッドセンサー™ Pro SL-AC は下記の2つの機能を備えています。

- 「浅」モード: 木製・金属製の梁や間柱の『端』を壁から19mm の深さまで探知
- 「深」モード: 木製・金属製の梁や間柱の『中心』を壁から 38mm の深さまで探知

WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能は「浅」・「深」と金属モード内で自動的に作動し、交流電線を探知するとお知らせします。電圧を探知すると、電線警告インジケーターが点灯します。

最新版の使用取扱説明書、または製品に関する詳細は当社ホームページ (www.zirconinternational.com) をご覧下さい。 ZIRCON

限定一年間保証
Zircon Corporation (以下「Zircon」とする) は、本製品をお買い上げになった日から一年間、その部品および仕上げのどちらにも欠陥が無いことを保証します。保証の対象となる欠陥のある製品は、送料前払いの上、購入日を証明する書類を添えて、Zircon* まで返送いただくことになります。このような製品については、Zirconの判断により修理または交換をさせていただきます。この保証は、電子回路および製品本来のケースに限定されるもので、誤用、不適当な使用、不注意などによる損傷は特に除外されます。この保証は、明示または黙示に関わらずその他全ての保証の代わりとなるもので、その性質に関わらずその他のいかなる表現や主張も、Zirconを拘束したり義務づけることはないものとします。本製品に適用できる黙示の保証がある場合は全て、購入から一年間以内に限定されるものとします。本製品の所有、使用、または誤作動によって生じる特別損害賠償、付随的損倍賠償、あるいは間接的損害賠償については、いかなる場合にもZirconが責任を負うことはないものとします。

(米国) 政府の規制に基づく勧告の事柄
(i) 一部の州あるいは国においては、黙示の保証に対しての継続期間の制限、および付随的損害賠償または間接的損害賠償の除外や制限、あるいはその一方をを認めていない場合もあり、その場合、上記の制限や除外が適用されないこともあります。さらに、(ii) この保証により、特定の法的権利が付与され、かつ州あるいは国によってはその他の権利が付与されることもあります。

修理・代替サービス
製品の取扱いには万全を期しておりますが、万が一製品購入後一年以内に修理あるいは代替サービスの必要が生じた場合は、送料前払いの上、相当の製品を下記の宛先までお送り下さい。この際、お名前と返信用の住所を必ず表記してください。限定期間内のサービスご請求の場合は、購入日を証明する書類 (日付付きの領収書) を添えてお送り下さい。この書類の添付なしに請求された限定期間外のサービスに関しては、修理後に代金引換 (着払い) にて返送させていただきます。

Zircon Corporation
*Attn: Returns Department
1580 Dell Avenue
Campbell, CA 95008-6992
USA

カスタマーサービス
製品に関するお問い合わせやその他のカスタマーサービスのご請求は、お手数ですが最寄の代理店、または下記の方法でZircon Corporation 本社までご連絡下さい。

電子メール: info@zircon.com
ホームページ: www.zirconinternational.com
TEL: +1 (408) 963-4550
FAX: +1 (408) 963-4597

本社営業時間は太平洋時間で午前8時から午後5時までとなっております。太平洋時間の日本からの時差は、標準時間期間中で+17時間、夏時間期間中で+16時間です。

大変恐れ入りますが、今現在お電話でのお問い合わせは英語のみとさせていただいております。

U.S. Patents 5352974, 5619128, 6023159, 6259241, and 6291970
Canadian Patents 2141553, 2341385, and 2353156
Japanese Patent 3581851
German Patent 69333884.9
French Patent 0657032
U.K. Patent 0657032
E.U. Patents Pending

1. 電池交換の仕方

注: 本体裏側のネジは緩めたり外したりしないで下さい。

クリップの両端を押して本体から外します。

電池と電池ケースのプラス(+) とマイナス(-) 極が合うようにして9 ボルト (角) 電池を端子側からケースに差し込みます。

2. モードの選択

モード切替スイッチをお好みのモードに設置します。「浅」モードは木製・金属製の梁や間柱探知に、「深」モードはさらに厚い壁上を走査する時に最適です。

この製品は ON/OFF スイッチが押されていない場合、OFF (作動停止)の状態になります。

3. 梁・間柱の探知

常に本体を壁にピッタリと付けて探知を行ってください。モード切替スイッチを「浅」モードに切り替えた後壁上にピッタリと置き、ON/OFFスイッチを押します。スイッチを放さずに押した状態のままにします。緑の「スタート」ランプが点灯し、ピーッという短い音で調整完了を確認をしたら、探知開始の準備OKです。

ON/OFFスイッチを押しままゆっくりと横にスライドさせます。梁・間柱に近付くにつれ、赤のLEDランプが下から上へ向かって連続的に点灯します。

一番上の緑のLEDランプが点灯し、SpotLite™ (スポットライト) 指示システムが作動・点灯し、連続音が鳴ると、梁・間柱の端を探知したことを意味します。この位置に印を付けます。

印を付けた地点を越えてからも ON/OFFスイッチから手を離さずに、緑の LED ランプが消えるまでそのまま走査を続けます。その後反対方向にスライドさせ、もう一方の梁・間柱の端を検出します。

先同様インジケーター、スポットライト、連続音の全てが揃った地点で二つ目の印をつけます。この二つの印の間が探知された梁・間柱の中心となります。

4. WireWarning™ (自動電線警告) 探知

WireWarning™ (自動電線警告)
Zircon の WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能は「浅」、「深」の両モードで連続的に作動します。通電中のAC (交流) 電圧を察知すると電線警告インジケーターが点灯します。探知開始が通電中の電線上で行われた場合はこのインジケーターが点滅します。

注意: 電線やケーブルが壁の表面から50mm 以上の深さにあり、導管内や合板壁裏側に位置する場合、または金属製の壁に覆われている場合は探知されないことがあります。このような状況下や、通電中電線が存在する時には、充分注意をしてください。

電線付近で作業をする時は常に電源を切ってから行ってください。

5. 操作上のヒント

電線や導管の壁表面への距離によっては、梁や間柱同様に探知されることがあります。このような状況下 (電線や導管が付近に存在する、またはその可能性がある場合) で壁、床、屋根への釘打ち、切断、ドリル作業をする時は特に注意をしてください。

さらに安全性確認のため、梁や間柱は一般的に約 30cm, 40cm, 60cm の間隔で設置されており、38mm の幅でできていることを念頭においてください。この間隔以下や幅以外は間柱、梁、防火線のどれでもない可能性があります。

電線付近で作業をする時は常に電源を切ってから行ってください。

異なる素材の取扱い

スタッドセンサー™ Pro SL-AC は、乾いた内装壁上での使用のみにご使用下さい。

注: 探知物の検出深度と精度は、水分、壁材、湿度、壁の質、ペンキの有無等、様々な要素に影響を受け変動する可能性があります。

スタッドセンサー™ Pro SL-AC は、以下を含むほとんどのシート材料を通して効果的に探知を行うことができます。

- 木製の床(「深」モード内)
- 木製基板上のリノリウム
- ベニヤ板上の石膏ボード壁
- 壁紙が貼られた壁 (乾いている場合)
- 厚さの均等な、表面加工の施された天井 (表面に傷を付けないよう薄いボール紙を天井に当てて走査を行うこと)

スタッドセンサー™ Pro SL-AC は、以下のような密度にムラのある素材を通しての探知はできません。

- セラミック製フロアタイル
- カーペットやパッドが敷かれた床
- 金属繊維を含む壁紙
- 塗りたてでまだ湿っている壁 (塗装後完全に乾くまで一週間かかそれ以上かかる場合もあります)
- ラスとしっくいでできた壁
- 金属箔に覆われた断熱ボード
- ガラスその他の密度の高い素材

FCC パート 15 クラス B 登録に関する注意
本装置は、FCC規定パート15に準拠し、操作は次の二つの条件に応じています: (1) 本装置により有害な通信妨害を引き起こすことができない、そして (2) 本装置は、望ましくない保護を引き起こす可能性のある通信妨害を含め、受信する妨害を受け入れなければならない。

6. 役立つヒント

状況	考えられる原因	解決方法
LED ランプが点滅し始め、連続的に音が鳴る。	• 探知が壁の密度の高い位置または間柱の真上で開始された。 • 本体が壁にピッタリ付いていない。 • 走査中に本体を傾けたり持ち上げたりした (これらは全て適切な調整に影響を与える可能性あり)。 • 探知表面の密度が高すぎるか、湿り気があり過ぎて正当に作動しない。	• 電源を切って左右どちらかに数センチ移動させ、もう一度 ON/OFF スイッチを押して探知を再開始する。 • 表面がデコボコの場合は、本体を滑らかに移動させるために薄いボール紙を置き、その上から探知を行う。 • 調整、走査中に手を本体から 15cm ほど離す。親指と人差し指を使って本体を持ち、指がグリップより上に出ないようにする。調整後は指を動かさないよう注意する。 • 常に本体を柱に対して平行になるように持ち、それらに対して直交するように移動させる。 • ペンキを塗ったり壁紙を貼って間もない壁で探知を行っている場合は、乾くまで充分な時間を置き、もう一度探知を試みる。
「浅」モードで梁・間柱が探知できない。	• 壁が特に厚い、または壁の密度がとても高い。	• 「深」モードに切り替えて柱を検出する。
「スタート」インジケーターが点灯するが、走査を始めるとそれ以外何も起こらない。	• 本体が壁にピッタリ付いていない。 • 「深」モード (「深」の横にあるオレンジのLEDランプが点灯) 内で、カリブレーション (調整) が間柱の真上で行われた。	• 本体裏面にあるフェルトパッドが探知をする表面にピッタリ付いていることを確認する。 • 違う場所で再調整し、表面を再走査する。
「深」モードで梁・間柱が探知できない。	• カリブレーション (調整) が間柱の真上で行われた可能性がある (「深」モードは「浅」モードの約二倍の感度に設置されているため、このモード内ではエラー表示機能が作動しない) 。 • 本体をテレビのリモコンのように壁に向けて手で持っている。	• 数センチ移動させてから再調整する。 • 本体裏面にあるフェルトパッドが探知をする表面にピッタリ付いていることを確認する。
梁や間柱以外の物を探知する。	• 電線と金属またはビニル管が壁の裏面に近接または接触している可能性がある。	• 梁や間柱は一般的に約 30cm, 40cm, 60cm の間隔で設置されているので、それを確認する。また、当初の探知箇所のすぐ上や下にさらに間柱が設置されている場合もあるので確認する。
電線が存在すると思われるが、探知しない。	• 電線が金属箔、ベニヤ合板、またはその他の密度の高い素材や物質の覆いで保護されている。電線が導管内に存在している可能性もある。 • 通電してない可能性がある。 • 電線が壁面 (探知表面) から5cm以上の深さにある場合、探知されない可能性がある。	• 探知範囲内に合板、石膏ボード壁裏の厚い木製裏付け材、または普通より厚い壁がある場合は特に注意する。 • コンセントが電源スイッチでコントロールされている場合は、探知時には電源が入っていること (ON の状態)、電線付近で作業をする時は電源が切れている (OFF の状態) ことを必ず確認する。 ***電線付近にある壁、床、屋根への釘打ち、切断、ドリル作業をする時は必ず電源を切ってください。***
電圧探知範囲が、実際の電線 (AC/ 交流電圧のみ) よりかなり大きく表示される。	• 電圧探知は、石膏ボード上で実際の電線の両側最高約30cm まで広がって見える可能性がある。	• 探知範囲を狭めるには、一度電源を切り、最初に探知した電線の端の部分で再度入れ直す。その後、走査を再び開始する。 ***電線付近にある壁、床、屋根への釘打ち、切断、ドリル作業をする時は必ず電源を切ってください。***